

庭に自作 小さな「別荘」 キットで手軽 木の温かさ

2017/3/22付 | 日本経済新聞 夕刊

手軽に別荘気分が味わえる木造キットハウスの注目が高まっている。色や大きさ、デザインを好みに合わせてアレンジし、電動ドライバーなどを使って自分でつくる点が魅力だ。木の質感や風合いを生かし、都会にいなながら森の中に住んでいるような雰囲気演出できる。

「家族全員で組み立てたからこそ愛着がわいた。達成感もひとしお」。東京都大田区の小川賢太郎さん（52）は2016年夏、庭の拡張と同時に木造キットハウスを購入した。大きくなった庭の「シンボル」にするのが狙いだ。

キットハウスの大きさは幅150センチ、奥行き90センチ、高さ207センチ。広さは1.35平方メートル（0.4坪）ほどだ。幅200センチ、奥行き150センチほどの空間があれば設置することができる。壁と屋根は、あらかじめ木製パネルに加工されており、付属のねじを使って自分で組み立てる。小川さんは約20年ぶりのDIYとなったため、自ら組み立てることに不安はあったが「説明書と電動ドライバーなど簡単な工具さえあれば1人で十分」。週末に9歳の娘、16歳の息子、妻の亜樹さん（46）と協力して計3日で完成させた。

キットハウスを販売した、さくら（宮城県亘理町）の合原綾子さんは「当初は物置として庭の隅っこに設置することを想定していたが、庭の真ん中に主役として置くお客様が多い」と話す。小川さんも、「ガーデンルームから外を見ると別荘にいるかのような感覚を味わえる」という。キットハウスの価格は14万円ほど。小屋の中にはガーデニングの道具やバーベキューセットがしまっている。「週末に庭を眺めながらみんなでランチを食べるのが楽しみだ」と小川さんは顔をほころばせる。

□ ■

千葉市の戸建て住宅に住む豊田俊さん（56）は自宅から数十メートルのところの木製ガレージを建て、離れとして利用している。月に1回は友人を招き、趣味の音楽や車について語り合う「自慢の空間」だ。ベッドや流しも設置し、週末は泊まる



小川さん宅からはキットハウスと庭が一望できる



豊田さんはガレージを趣味の離れとして利用する

こともある。隣には緑色の愛車が止めてあり、イスに座りながら眺めることができる。

05年に200万円（当時の販売価格）ほどで購入し、少しずつ手を加えている。昨年はレコードを飾るための棚を自分で組み立てた。「気軽にレイアウトを変更したり、家具を追加できたりするのが魅力」と話す。

ガレージキットの大きさは幅7.9メートル、奥行き7.3メートル、高さ4.3メートルほど。広さは58平方メートル（17.6坪）だ。建ぺい率により必要な用地の面積は異なるが、60%の場合は30坪程度のスペースが設置に必要となる。

壁に使う木製パネルや屋根に使う製材品などを付属のくぎを使って組み立てる。大型な建物になるためハーフビルドといって、屋根や壁といった構造部分の組み立てだけを業者に頼む人が4割程度を占める。豊田さんもその一人で、外壁材・断熱材・シャッターの取り付け、電気の配線、建物全体のペンキ塗装などをDIYで手掛けた。

外壁やシャッターにはカナダ産のレッドシダーと呼ばれる針葉樹を使用している。販売したジェイスタイル・ガレージ（東京・豊島）の渡辺弘之代表は、「軽量で腐りにくい特徴を持つため、最低限の手入れで長く使い続けることができる」と説明する。

□ ■

団地内の農園の共有施設として利用する例もある。都市再生機構（UR）は、みさと団地（埼玉県三郷市）の住民の求めに応じて貸農園を設け、木造のキットハウスを14年に建てた。「緑の多い団地なので風景に溶け込むようにしたかった」（担当者）。施工は業者に依頼した。

小屋の中では料理をつくるほか、管理会社の事務所としても利用する。農園を管理している農園運営事務局の小川友明さん（73）は「若い住民が小屋の前で写真を撮っていることもある。畑を利用しない人たちにも楽しんでもらえているようだ」とほほ笑む。

イチゴやサヤエンドウを栽培しているみさと団地の40代の住人は「利用者で料理を作るイベントの時に小屋の横にテントを張る。森の別荘にいるようで特別な気持ちになる」と話す。農園では20～70代の幅広い世代の人が楽しんでおり、小屋を中心に憩いの場ができている。

URが購入したキットハウスの価格は65万円ほど。北欧のアカ松を使用しており「松油がしみ出してだんだんアメ色に変わってくる」（販売したビッグボックス＝

宇都宮市 = の手塚大介社長)。時間の経過とともに色合いが変わっていくのも木ならではの魅力だろう。

(商品部 伊地知将史)

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

Nikkei Inc. No reproduction without permission.